

食料・エネルギーの「地産国消」に貢献する

社会情勢の大きな変化、SDGsの潮流の中で、建設業界では「新4K」や「ESG」の取組が焦眉の急となっており、地域課題の解決、社会貢献の観点で重要視されつつある。このため、会員各社が関係機関との連携・協力を図りながら行っている食料・エネルギーの「地産国消」の取組を紹介し、地域、社会貢献に関する行政とのパートナーシップの深化を図る。

vol.11

『ちよつと贅沢ないちご狩り』で 元気な会社と町おこし

「ココロいちごファーム」の取り組みについて

鉄建建設株式会社 土木本部参与 鈴木 和也

はじめに

鉄建建設株式会社は、企業の持続的成長を目的として、ESG（環境・社会・ガバナンス）の中の「地域創生」、「循環型社会の構築」、「地域社会への貢献」に取り組むことにしています。

その取組の一つとして、本業の建設分野以外の農業分野への参画を検討していたところ、農業分野にも詳しい武蔵野銀行より、埼玉県八潮市で農産物の生産・販売を行っており、生産領域の拡大を考えていた農業法人「株式会社しゅん・あぐり」を紹介され、二〇一九年に共同出資で新会社、株式会社ファームティー・エスを創設しました。

同年に、ファームティー・エスは、埼玉県松伏町

において観光農園「ココロいちごファーム」を開業し、さらに二〇二四年には千葉県野田市に第二農園となる「ココロいちごファームガーデン 千葉農園」をオープンし、観光農園を通じた地域の活性化に貢献する活動を行っています。

観光農園「ココロいちごファーム」での取り組み

(1) いちご観光農園を選択した理由

農業事業への参画にあたり、販路の確保、資金調達などの課題があることから、これらの課題の解決を目的として、①流通先を必要としない、②出荷作業の必要がない、さらに③それにかかる人件費の削減が可能となることから、観光農園を選定し、運営することとしました。

また、観光農園の作物の選定にあたっては、他の作物と比較して収益性が高いことからいちごを選定し、さらに栽培品種については、非常に糖度が高く、埼玉県オリジナルブランドとして埼玉県内のみで栽培が許されており希少性が高い品種である「あまりん」と、酸味と甘味のバランスが良く、いちご狩り用の品種として人気の高い「紅ほっぺ」を栽培品種として組み合わせることで、「ちよつと贅沢ないちご狩り」を楽しめ、他のいちご観光農園との差別化を図ることにしました。

(2) 観光農園「ココロいちごファーム」について

二〇一九年、埼玉県松伏町に開設した観光農園「ココロいちごファーム」では、ビニールハウス五棟を連結し、約一万株のイチゴを栽培しています。ここではイチゴの収穫作業をしやすいよう1mほどの高さで栽培する「高設栽培」を採用するとともに、厳寒期の冬でも甘みや酸味などの特徴が異なる品種の食べ比べが楽しめるようハウス内で暖房機を使い、春先のような暖かさを再現しています。

また、「ちよつと贅沢ないちご狩り」を実現するため「ゆっくり・ゆったり・心地いい」をコンセプトにゆったりとくつろいだ空間の中で、いちご狩りが楽しめるよう、「予約制」として、ココロいちごファームのホームページまたは予約サイト「じゃらんnet」で受け付けています。また園内にはゆったりとくつろげるようにテーブルと椅子も準備し、時間についても四〇分食べ放題と長めに設定しています。

「コロコロいちごファーム」埼玉農園（第1農園）の概要

- 2019年 埼玉県松伏町にオープン
- 農園面積 1,400㎡、ハウス5棟
- 栽培品種 あまりん、べにたま、紅ほっぺ、あきひめ
株数：8,600株
- 2023年シーズン来場者 約3,900人

埼玉県

松伏町



「コロコロいちごファーム」埼玉農園（第1農園）の全景



いちごの栽培
方法を説明



いちごの上手な
とり方を説明

(3) 観光農園「コロコロいちごファーム」

の効果発現を目指して

「コロコロいちごファーム」を開設した埼玉県松伏町は、埼玉県の東南部地域に位置し、鉄道の駅がなく、人の交流は少なく、人口の減少、観光資源が乏しい等の問題を抱え、地域の活性化と農業振興が課題でした。

そのため、松伏町長からは地域振興のため、観光農園が交流人口を増やす第一歩と期待していると言われました。

一方、鉄建建設としては、地域創生、地域社会への貢献、新事業拡大による経営の多角化に取り組み、広く一般社会、消費者に知られるよう B to C ビジネスの強化を図ることが課題でした。

そのような課題を解決すべく、現在、「コロコロいちごファーム」では、「六つの取組」で地産地消を推進しています。六つの取組とは、①予約制のいちご狩り観光、②ハウス内でのいちご販売、③地元ケーキ店のいちご販売、④地元スーパー（ヤオコー）、農作物直売所「ゆめあぐり」でいちご販売、⑤JREモールの贈答用いちごのネット通販（ふるさと納税含む）、⑥ジェラート、パウンドケーキ、ゼリー等の加工品販売と通販、に取り組んでいます。

「コロコロいちごファーム」の事業紹介

- 「じゃらん」と農園ホームページでの予約制

いちご狩り

ハウス内
販売

- いちごパックとあまりんジャム



あまりんのジャム

ケーキ屋への
販売

6つの取組で
地産地消を
推進

加工品の
販売

- ジェラートやパウンドケーキなど



いちごの
ジェラート、シャーベット

- 地元のスーパー「ヤオコー」でのいちごパックを販売

スーパーへの
販売

通信販売

- ネット通販「JREモール」で「贈答用いちご」を販売

そのほか、二〇二二年十一月と二〇二四年三月に開催されたファーマーズ&キッズフェスタには、「コロコロいちごファーム」のブースを出展し、取組紹介、いちご販売、ジェラート、ドリンク、パウンドケーキなどを販売するなど各種イベントへの参加活動を通じて、松伏町と鉄建建設が協力して都市住民等へ情報発信、交流と幅広く取り組んでいます。

「コロコロいちごファーム」が参加した主なイベント

- ファーマーズ&キッズフェスタ
(代々木公園、日比谷公園等)
- JR東京総合車両センター夏休み
フェア (東京都品川区)
- 埼玉県いちご祭(さいたま新都心)
- 日本シニアオープンゴルフ選手権
- 流山市森のナイトフェア

等



ファーマーズ&キッズフェスタ
(2022年11月 日比谷公園)

更に、「コロコロいちごファーム」は、全国いちご選手権で三年連続最高金賞を取った「あまりん」をいちご狩りができる観光農園として、あまりんのおいしさとともに、令和七年二月に「日本テレビ news every.」で広く紹介されました。

観光農園「コロコロいちごファーム」の効果について

このように、松伏町と鉄建建設がWin-Winの関係の下で、『ちよつと贅沢ないちご狩り』で元気な会社で町おこしを進めてきた結果、松伏町では、①当園内での栽培、接客、加工、販売、出荷等に関する地域雇用の創出、

②観光いちごに訪れたお客様等の交流人口の増加、③いちご等の観光農園、農産物直売等の取組拡大等による地域農業の活性化、

④観光農園等を通じた町の新たな観光資源としての情報発信などの

効果、また、鉄建建設と農業法人「株式会社しゅん・あぐり」にとっては、

①農業生産法人と企業のマッチングの成功、

②鉄建建設の知名度アップ、

③地域貢献で企業価値アップ、

④いちごの栽培、接客サービス、加工品、販売等の工夫、品質向上を通じた多様な人材育成などの効果がみられています。

このように農村地域と企業との連携した観光農園「コロコロいちごファーム」での取組みは、相乗効

果が発揮されお互いの課題の解消に向けて成果があらわになっているところです。

「コロコロいちごファーム ガーデン 千葉農園」をオープン

新たに二〇二四年十二月には、千葉県野田市に第二農園となる「コロコロいちごファーム ガーデン 千葉農園」を「食と農を通じて、地域発展へ貢献すること」を目的にオープンしました。オープンにあたっては、野田市長からは、

「さまざまな人が楽しめる施設を作ってもらったことに感謝する。地元の農家と共存共栄し、野田市が活性化されればありがたい」と期待の言葉を頂戴しています。

この第二農園は、第一農園である埼玉県松伏町の「コロコロいちごファーム」で得られたノウハウを活かしつつ、ハウス面積を二、八〇〇㎡と第一農園の二倍に広げ、より多くの方々が利用できるだけでなくことができるようになり、更なる地域活性化や地域間交流が促進されるよう、取り組んでいます。

特に、こちらの農園では、新たにキッチンカーを導入し、いちご狩りで摘み取ったいちごをトッピングしてオリジナルクレープを作るメニューや、いちごをたっぷり一〇〇g使った贅沢なクレープを数量限定ながら楽しめるように用意しています。

さらに「コロコロいちごファーム ガーデン 千葉農園」のオープンに際し、大変多くの来場者があり、地元の方々からの地域間交流を通じた地域の活性化の期待に応えられるものと考えています。

地元交流・人材育成などの効果も発現

「コロコロいちごファーム」が地元住民のパート雇用となることはもちろんですが、また鉄建建設の社員にとっても今まで体験していなかった栽培技術の取得・向上だけでなく、接客を通じた対応、交流能力の向上等が、人材育成の機会となっています。

また、地元のパートタイム社員と鉄建建設の社員が一緒に連携して働くことを通じて、お互いが栽培技術・品質の向上をはじめ、接客面のサービス向上、販売促進等に様々なアイデア、意見等を出し合い、実現することにより、お互いがパートナーとしての連帯感が醸成され、交流促進の場にもなっています。

「コロコロいちごファーム」という他分野である観光農業を通じて、建設業では携わっていなかった業務を体験し、担当社員の新たな可能性の発見とやりがいの向上等、育成の機会となっています。

「コロコロいちごファーム」の今後の取組方針

これまでの「コロコロいちごファーム」を通じ、培われてきた運営のノウハウ、地元との連携・お客様との交流、加工・通販等を通じた人材育成、情報ネットワークを活かして、さらに新たな雇用促進と更なる地域の活性化を目指していきたいと考えています。

そのためには、

①「あまりんブーム」を生かした、より効果的な運営

「コロコロいちごファーム ガーデン」千葉農園(第2農園)の概要

- 2024年12月 千葉県野田市にオープン
- 農園面積 2,800㎡、ハウス7棟
(育苗ハウス除く)
- 栽培品種 よつぼし、かおり野、紅ほっぺ、あきひめ
株数：17,000株
- キッチンカー導入 クレープ等スイーツも充実

野田市



千葉県



「コロコロいちごファーム ガーデン」千葉農園
(第2農園)の全景



来園記念の写真撮影用の
ベンチとロゴマーク



農園のいちごの品種とそれぞれのおいしさ、
特徴などを紹介



農園で採れたての
いちごを使ったクレープ

② キッチンカーイベントへの積極的な参加による
夏季の売上げ増と農園のPR活動の推進

③ ジャム、アイス、ゼリーに続く新たな加工品の
開発等

に取り組んでいきたいと考えています。

今後とも「コロコロいちごファーム」に会場され
た方々に楽しんでいただくために、地元の皆様と一

緒に「『ちよつと贅沢ないちご狩り』で元気な会社
と町おこし」に取り組んでいくとともに、松伏町、
野田市の良いところをもっと知っていただくための情
報発信に努め、都市と農村の交流を活性化すること
で、地域の雇用促進、活性化に貢献するとともに、
更なる弊社の経営多様化・人材育成にも役立てまい
ります。